芝中発夢未来　～日々新たな気持ちで挑み、学びを楽しむ～

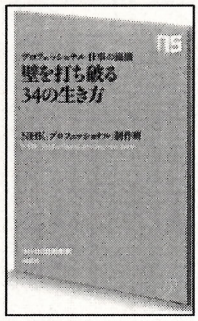
未来創

2022(令和4)年
1/21 金
通心031(第671号)

朝、７時半頃に教室に行くと、ある一人が教室内の掃除をしている姿をしばしば見かけます。誰に言われるわけでもなく、黙々と教室内をほうきで掃いてくれています。昨日は、ほうきについたほこりをブラシでとってくれていました。きっかけは分かりませんが、誰かに「やらされる」のではなく、自分で決めて行動する心。人のために行動する姿勢。何より、周囲に誰もいなくても黙々と取り組んでいる姿に学ぶことは多いです。普段の清掃の時間とはまた違った、やさしく、穏やかな空気が、朝の教室に流れている気がします。ありがとう。

「引き寄せの法則」というのがあるように、清掃のことを考えると、たまたま手に取った本を読んでいても、清掃の話が目につくものです。清掃員である新津春子さんの話を紹介します。新津さんは、500人を超える羽田空港の清掃員を指揮し、2013・2014年と２年連続で、400を越える国際空港のなかで世界一「清潔な空港」の称号を勝ち得ました。

やさしさで、清掃する



苦悶の日々を送っていた新津さんを変えたのは、一つの出会いだった。

羽田空港で働き始めた23歳のとき、新津さんの指導役となった、鈴木優さん。清掃業界のエキスパートとして知られていた。鈴木さんの清掃はとにかく細やかで、新津さんは叱られながらも道具の使い方から洗剤の選び方まで徹底的に叩きこまれた。その熱血指導を受けるうちに、新津さんは清掃という仕事の奥深さに気づき、おもしろみを感じ始めた。そして鈴木さんに認められようと、これまで以上に一心不乱に清掃に励んだ。新たな洗剤が出ては試し、どれだけ素早く汚れを落とせるか、道具の使い方に磨きをかけた。さまざまな清掃会社に出向いては、やったことのない汚れを落とそうと挑んだ。しかし、いくら頑張っても鈴木さんは新津さんをほめようとしない。顔をあわせるたび、同じことを注意するだけだった。

「きみの清掃には、心がない。心を込めなさい」

新津さんは何度も反発した。清掃のテクニックにおいて、もはや屈指の腕前。きれいになっているじゃないか。何がいけないというのか。

そんなある日のこと。新津さんは、鈴木さんから、全国の清掃員が技術を競う選手権への出場を打診される。これで優勝すれば、鈴木さんをはじめ誰もが自分を認めるだろうと意気込んだ。だが、全国大会をかけた予選会、一位だと確信していたのに、結果は二位だった。新津さんはショックを隠せなかった。

納得できず、いらだちながら業務にあたっていた新津さんに、鈴木さんが声をかけた。

「心に余裕がなければ、いい清掃はできませんよ。自分の心に余裕を持っていないと、相手にやさしくできないでしょう。きみがやっている清掃は、自分だけが見てきれいだと思っている、ただの自己満足です。それを使う人がきれいだと思わないと、意味がないでしょう。そのためには、何が必要だと思いますか？」

はっとした。はじめて、鈴木さんから言われ続けていた「心を込める」という言葉の意味がわかったような気がした。これまで、ただきれいにすることだけを考えていた自分。でもほんとうに大切なのは、「目に見えない」部分にまで心を配り、使う人のことをどこまでも考える姿勢だったのだ。

それから毎晩、全国大会に向けて、鈴木さんと猛特訓を重ねた。たんに強い洗剤を選ぶのではなく、素材を長もちさせるにはどの洗剤がいちばんいいのか。目にうつらない部分を細やかに清掃するにはどうすればいいのか。そして二ヶ月後に迎えた全国大会で新津さんは見事、最年少で優勝を果たし、日本一の清掃員に輝いた。

優勝したことを電話で鈴木さんに伝えると、返ってきたのは意外な言葉だったという。

「（優勝するのは）わかってましたよ」

・・・それからまもなくして、新津さんに、もう一つ変化があった。心を込めてやさしく清掃をしていると、不思議と、使う人たちから「ご苦労さま」「いつもきれいにしてくれてありがとう」という声が返ってくるようになったのだ。ずっと自分の居場所を探し続けてきた新津さん。清掃がかけがえのない居場所になっていたことに気づいた瞬間だった。

『プロフェッショナル 仕事の流儀 壁を打ち破る34の生き方』（NHK「プロフェッショナル」制作班／NHK出版新書）

新津さんはこう語っています。「清掃はね、やさしさ、なんですよ。やさしい気持ちを込めないときれいにできないんですね。相手のことを考える、相手が見て、きれいと思うかどうかが大事なんです。それは『人』だけじゃないですよ。清掃する『道具』や『もの』だってそう。すべてを大切にして、どうすればもっと快適に使ってもらえるかな、どうすればもっと幸せにできるかなって考え続ける。そうすれば、それがきっとお客さまにも伝わって、私たちももっときれいにしようっていう気持ちが強くなる。…」。自分から清掃している人は、きっと「やさしさ」をもっているんだな、と思いました。